伊豆総合版

コロナ禍でも高齢者の居場所に

松崎「蔵ら」学会誌で紹介

静大生が地域政策論文

松崎町の企業組合「であい村・蔵ら」（青森千枝美代表）を取材して執筆した静岡大農学部園芸イノベーション学研究室の学生の論文が、日本地域政策学会が発行する論文誌「日本地域政策研究」に掲載された。学会誌への掲載を受けてこのほど、研究成果発表会が町環境改善センターで開かれ、高齢者らの居場所として地域で輝く「蔵ら」の取り組みなどを学生が紹介した。

青森代表「ドラマができたよう」

蔵らは2010年に手芸活動などを行う。発足し、食事の提供や学生はフィールドワークの一環で18年から蔵らと交流があり、コロナ禍でも活動を維持できた秘訣（ひけつ）に迫ろうと取材して1万1千字にまとめた。

発表会で学生は、居場所には物理的要素と心理的要素があるとし、蔵らはその二つとも満たしていると説いた。その要因として、大きな出費を心配する必要のない働く全員が出資し、経営に責任を持ち、労働も担う「ワーカーズコレクティブ方式」による運営、共有可能な分かりやすい目標を設定するなど青森代表のメンバーへの気遣いを挙げた。「蔵らの活動は多くの過疎地域が抱える問題を解決する手掛かりの一つになる」とまとめた。

発表を聞いた青森代表は「蔵らのドラマができたような気持ちで胸がいっぱい。これからも頑張っていきたい」と講評した。

コロナ禍でも高齢者らの居場所であり続けた「蔵ら」の活動をまとめた研究成果発表会＝松崎町環境改善センター

伊豆新聞 2023 年 4 月 24 日掲載（伊豆新聞本社総務局許諾済み）